

【会議記録】

第1回一宮市部活動地域移行検討協議会

日時	令和5年5月11日（木）14時30分～15時45分
場所	一宮市役所9階 901会議室
出席者	委員13名（鈴木、春日井、土川、長谷川、小島、町田、五藤、伊藤之、芳賀、江藤、伊藤実、藤原、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 議事

(1) 令和5年度一宮市部活動地域移行検討協議会 協議内容について

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・第2回協議会では、バレーボール以外で現在のモデル事業を検討している形についての実施方法について。第3回協議会では、バレーボール及びその他の形のモデル事業、休日部活動の地域移行に伴い今後の平日の部活動の在り方について協議したい。
- ・第4～6回協議会では、モデル事業に参加した生徒・保護者、団体にアンケート調査を実施し、モデル事業に関わる課題の把握と次年度に向けての改善案について協議し、次年度の活動計画を立てていきたい。

- 令和8年度から全体像を見据えて逆算し、令和5年度と令和6年度は、様々な課題とは何かを洗い出していく必要がある。「課題形成期」という解決の前の課題を形成していく時期に当てており、本年度はその1年目になる。

(2) モデル事業実施方法について バレーボール

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・バレーボール団体の担当者と対面で2回の打ち合わせを行った。参加費が少し高額になっている。途中で退会する際の返金をどのようにするか等、参加しやすい形を検討したい。
- ・今回のモデル事業の趣旨は、今後の地域移行のあり方を検証・検討することである。参加者がどれだけ集まるのか、このモデル事業を通してどのような課題が出てくるのかを検証したい。
- 最初にまとめて参加費を支払うということだが、子どもの「試しの日」はあるか。親が参加費を支払った後に、急に辞めたいという子がいるので、体験があるとよい。参加できる回数や、それに見合う金額かということも分かる。
- この事業をモデルで終わらせないということを考えると、就学援助を受けている家庭に対しての補助を考えていかなければならない。
- 人を集めるは本当に難しい。学校の枠から外れたときに、アナウンスしてもチラシを配ってもほとんど来ないと思ってよい。子どもたちは、そこに行ったら面白そうだという希望があるから行く。声をかければ、人が来るはずだという感覚は怖い。
- 今の4年生が中学校になった時には、完全移行という形になっている。細かいアンケートを今後も取っていくことが、子どもの意識を高めていくことにもつながる。
- どういう形でPRするのも大事。例えば、今学校にtetoruというシステムが入っているので、tetoruを活用してもよい。
- ここから2・3年の間は、このモデル事業に通って技量を上げ、自分たちの部活に戻って相手と戦うという目標がある。しかし、移行期が過ぎて、完全に部活動がなくなったときに、果たして親しむためにこれだけの参加費を払って、どこかに集まるということがどれだけ可能なのか。
- 今回このようなやり方をしたら、どのようなレベルの子が集まり、どのようになるのかを検証すればよい。今回のモデル事業は、子どもたちの1つの受け皿として考えている。その受け皿になり得るのかどうかは子どもが決めることだからやってみるしかない。
- 協議会の守備範囲（一宮地域クラブ登録性という大きな枠組み）を外さないようにしつつ、コンテンツや費用を考えていく必要がある。

(3) その他

- ・特になし

4 一宮市教育委員会あいさつ（学校教育課長）

5 閉会のことば